

オリンピック聖火リレー今昔物語

本記事は3/23時点の内容です。
聖火リレーは3/25に延期が決定
しました。



東京1964オリンピックから56年。東京2020オリンピック・パラリンピックが7月24日に開幕します。オープニングを飾る聖火リレーは、3月に福島県をスタート。熊本県では、5月6日・7日の2日間、それぞれの思いを胸に秘めた聖火ランナーたちが13市町村を駆け抜けます。今号ではその聖火リレーの今と昔を紹介します。

写真：三村勲さん提供

聖火リレーってな〜に？

聖火リレーとは、ギリシャ国内と開催国内で行うリレーによって聖火を開会式が行われるメインスタジアムまで運び、つなげるものです。オリンピックのシンボルである聖火は、開催国全体にオリンピックを広め、関心と期待を呼び起こす役目を持っています。今回は、121日間（移動日を含む）をかけて日本全国を巡ります。

聖火リレーの始まりは、ベルリン1936オリンピック競技大会。スポーツ歴史学者で組織委員会事務総長のカール・ディームの発案でした。その後もオリンピックのシンボルとして続いています。

聖火なんでもトリビア

古代オリンピック発祥の地ギリシャで採火された聖火は、特別機で日本に空輸されました。過去の大会では航空機以外に、船、馬、電子パルスなどの方法で開催地へ送られたそうです。

トーチ今昔物語

前回のオリンピックトーチってどんなものだったの？

◀1964年のオリンピックトーチ
雨でも火が消えない仕組みを搭載した鉄製のトーチ。シンプルに見えて、持ち手部分には「TOKYO」の刻印が。



三村勲さん提供

2020年のオリンピックトーチはこれ！

◀2020年のオリンピックトーチ
桜の花をモチーフに、色合いも桜ゴールドで日本らしさを込めたデザイン。炎が広がるように作られている。



Photo by Tokyo 2020

in 熊本 聖火リレールート



思いを託す
聖火ランナー

東京1964オリンピックの
聖火ランナーにインタビュー

成功が一番の願い

「2020年東京オリンピックが成功することが一番の願いです」そう話すのは前回の東京1964オリンピックの聖火ランナーの正走者の一人として力走した三村^{いさむら}勲^{いさむら}さん。前回の聖火ランナーは公募制ではなく、自治体の選出によるもので、バスケットボール部でインター

ハイや国体に出場した当時高校2年生の三村さんが、大江白川中校区からの推薦により選出されました。

名誉とプレッシャー

走る際には顔の向きやトーチを持つ腕の角度が規則で決められており「部活の練習の後、夜中に文鎮をトーチ代わりに持って練習しました」と当時を振り返りました。

本番当日、今でも鮮明に覚えているのは人の多さ。沿道に小さい子どもから高齢者まで多くの観衆が集まる中、産業道路の白川中〜子飼橋〜浄

行寺〜藤崎宮の1.8キロの間を走り、次の走者に聖火をつなぎました。「聖火ランナーは名誉なことですが、聖火が引き継ぐ前に消えたら大変という思いもありました」と三村さんは話します。

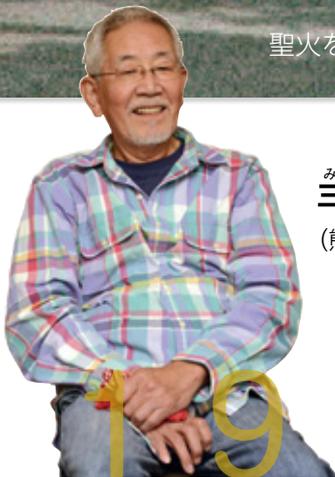
思いの火を託す

55年の時を超えてもなお聖火ランナーに対する思いの火が消えない三村さん。「今回の聖火リレーは、前回ほど厳しい規制はないと思うので自由に楽しく聖火を引き継いでほしいです」とランナーに思いを託しました。



聖火を持って走る三村さん

写真：三村さん提供



みむらいさお
三村勲さん
(熊本市)

1964



みやたてっぺい
宮田鉄平さん
(南阿蘇村)

当選の連絡があったときは、とても驚きました。走る区間は地元であり、熊本地震からの復興が進む南阿蘇の立野地区を希望しています。陸上部で鍛えた足で精一杯走り、家族や友達、被害を受けた人たちに笑顔届けたいです。

今回選ばれた聖火ランナー



いわさきひろし
岩崎博さん
(八代市)

娘が応募してくれて走るようになりました。高2の時、東京パラリンピックに出場したときの話を覚えていてくれたんだと思います。日本で2度目のオリンピック。観戦も楽しみです、まずは聖火リレーを笑顔で走りたいです。

2020



県国際スポーツ大会推進課
ひらまつ
平松さん

二次元コードから最新情報をゲット!

東京2020組織委員会▶
公式ウェブサイト



⚠️ 新型コロナウイルス感染症の影響により聖火リレーとイベントの内容が変更される場合があります。最新情報は公式ウェブサイトをご確認ください。

要チェック情報



セレブレーション in 八代市

日時 5月6日(水)

会場 やつしろハーモニーホール
多目的広場



セレブレーション in 熊本市

日時 5月7日(木)

会場 熊本城二の丸駐車場



お客さんを笑顔で迎える宮本さん。お店だけでなく商店街全体に人を呼び込むため、幅広い活動を行っている。

Work **22**

ひろふみ

宮本 博史

有限会社 阿蘇はなびし

Profile

昭和49年8月生まれ、45歳。宮地出身。熊本工業高校、建築の専門学校を卒業し、県外の住宅メーカーで営業を経験。平成9年、母親が飲食店「はなびし」を創業し帰郷。23歳で代表取締役就任。平成25年5月～平成27年5月まで全国商工会青年部連合会会長。



コミュニティを大切に――

―この仕事をはじめたきっかけ

熊本工業高校の建築科に行ったことがきっかけで建築の道に進み、ハウスメーカーで営業を経験しました。高校時代はラグビー部で、「one for all, all for one」(一人はみんなのために、みんなは一人のために)の精神は今も基本理念になっています。

その後、ログハウスの勉強のためカナダへ渡ったタイミングで母親が門前町商店街に飲食店「はなびし」を創業し、開店を手伝う形で阿蘇に帰りました。すぐカナダに戻る予定が、そのまま店を引き継いでいます。

―熊本地震を乗り越えて

熊本地震で大正13年建築の「旧緒方屋」が被災しました。地域の人たちの思い入れがある建物だったので、友人の宮大工に古民家復元を依頼し、2年前に「はなびし」を移転しました。従業員を守ることが経営者として一番大事なこと。お客さんが来ない場合も仕事を確保するため食品加工业も開始しました。

―商工会青年部について

26歳で加入し19年になります。次

の総会で卒業です。

青年部は、出会いが宝になる場所。体力と気力が充実した人の集まりです。思いが強く衝突もありましたが、何事も不可能と思うことはありませんでした。

―災害時の青年部の活躍

平成24年の水害では、県内の青年部がボランティアにきてくれ、徐々に熊本の部員たちのコミュニティが強くなっていきました。熊本地震の際も全国の青年部が集まり、色々な業種・業態の部員たちが、県内に無駄なく物資を届けてくれました。

経験から育んだ、「よそが困ったら恩を返す」の精神は世代が変わっても受け継がれていくと思います。

―仕事を始める人へのメッセージ

コミュニティを大切に、人と関わりの中でやりたいことを自分の言葉で言えるようにしてほしい。人からのアドバイスはうるさく聞かせるかもしれませんが、それは愛情です。人に感謝して成長できれば、なりたかった自分に近づけると思えます。甘えられる人にはしっかり甘えてください。

器提供: 如月窯

厚揚げとタカナのピリ辛煮

材料 (4人分)

- いりこだし汁…400cc (いりこ 40g)
- タカナ…300g
- 薄口しょう油…大さじ 3
- 砂糖…大さじ 2
- 厚揚げ…2丁 (400g)
- 酒…大さじ 3
- 七味唐辛子…少々

作り方

- ①いりこは前日に水に浸けてだしを取る。
- ②沸騰したお湯でタカナを少し柔らかく茹で、冷まして4センチくらいに切る。厚揚げは縦半分に切り6等分に切っておく。
- ③だし汁と調味料を鍋でひと煮立てさせ、厚揚げ、タカナを順に入れる。
- ④厚揚げが煮くずれないように中火で煮つけ、七味唐辛子を振り入れる。
- ⑤厚揚げとタカナを分けて器に盛り付ける。

問一の宮保健センター ☎ 22-5088



食改員から一言

タカナは下茹ですること、苦みが和らぎ程よい風味を感じられます。



FRESHMAN

阿蘇市で働く元気な若者を紹介！フレッシュマン

ひだ ゆうだい

日田 湧大さん (25歳)

住所: 赤水

阿蘇市立波野中学校

趣味 スポーツ、温泉 特技 野球

好きな言葉 継続は力なり

好きな人のタイプ 笑顔が素敵で一緒にいて居心地がいい人

阿蘇の好きなところ 自然、温泉

仕事の内容 教師

仕事で日頃から心がけていること 笑顔、毎日を楽しむこと

職場のPR 全校生徒29名で毎日楽しく学校生活を送っています。小学校と合同の行事や地域の方々を招いて行う行事など、地域の特色を活かした教育活動を行っています。

フレッシュマン

阿蘇市で働く元気なフレッシュマンを募集しています！自薦他薦は問いません。

[対象] ①阿蘇市民 ②阿蘇市内で働く人 ③仕事を始めて5年以内 ④おおむね30歳未満の男女

[問い合わせ] 政策防災課秘書広報係 ☎ 22-3232 (メール) pr@city.aso.lg.jp